淡江大學 100 學年度碩士班招生考試試題

139-1

系別：亞洲研究所(日本研究組)　科目：時　事　日　文

考試日期：2 月 28 日(星期一) 第 3 節　　本試題共 2 大題， 1 頁

本試題雙面印刷

日文譯中文(每題各 50%)

一、

そもそも希望とは何なのだろう。希望学では外国の研究者とも意見を交えながら、希望(Hope)を「A Wish for Something to Come True by Action」であると考えた。希望は「気持ち(wish)」「何か(something)」「実現(come true)」「行動(action)」という 4 本の柱から成り立つ。希望が持てない状況では、4 本柱のいずれかが見失われている。そして個人の希望に「お互いに(each other)」といえる他者とのかかわりが加わるとき、社会に共有された希望へとつながっていく。

日本人に「あなたの希望は何ですか」とたずねると「もっとよい仕事がしたい」とか「自分らしく働きたい」など、仕事にまつわる希望を語ることが多い。希望が持てない人の特徴を調べると、仕事に恵まれない場合や、それに伴い収入の乏しい場合も目立つ。希望が社会に広がるための一番の手段は、まぎれもなく雇用対策の充実である。

では今後、どのような雇用対策が求められるのだろうか。医療・福祉分野で確実に就業は拡大している。2002 年 1 月に 472 万人だった就業者も、昨年 10 月時点で 670 万人まで増えた。健康面で不安を抱えている人ほど希望を持ちにくい傾向もあることから、この分野の一層の成長は、希望の拡大にとっても不可欠である。

その他に見逃せないのが「専門サービス業」および「その他の製造業」などでの雇用創出の兆しだ。国内雇用で今後希望が持てるのは、専門性に裏打ちされたサービスと、従来の枠組みを超える柔軟性を持ったものづくりの分野だろう。

さらには教育機会に恵まれてきた人ほど、希望を持ちやすいといった特徴も見られる。2009 年度には 4 年制大学への進学率が初めて 50%を上回った。しかし、経済的理由から教育機会が十分に確保されていない人々も依然少なくない。苦しい状況を打開するのに大切なのは、昔も今も変わらず「勉強すること」である。

背面尚有試題

淡江大學 100 學年度碩士班招生考試試題

139-2

系別：亞洲研究所(日本研究組)　科目：時　事　日　文

考試日期：2 月 28 日(星期一) 第 3 節　　本試題共 2 大題， 2 頁

日文譯中文(每題各 50%)

二、

2010 年 10 月 1 日に始まった臨時国会における所信表明演説において、菅首相は「有言実行内閣」として、これまで先送りしてきた重要政策課題を実行すると発言した。国会については「政策の国会」となるように努めると述べている。「政策」を重視するのは、統治責任を負っている政権与党としては当然である。

しかし、国家にとって重要な政策課題への対応よりも「政局」をつくりだしてきたのは、与党自身であった。自民党政権時代から、衆議院において過半数の議席を有していながら、短命内閣で不安定政権となる。このようなことは、議院内閣制国家では通常起こらない。

議院内閣制は、政府の長(首相)を国民の直接選挙で選ばない。政権は議会選挙の結果、形成される。政府の長として大統領を直接選挙で選出し、議会とは別に政権が形成される大統領制との決定的違いである。議院内閣制では、議会の信任が、政権の形成と存続のための要件である。議会が内閣の不信任を決議すれば、内閣総辞職か議会解散となる。二院制議会の場合は、下院がこの任を負っている。

議院内閣制において、政権が安定的か不安定かは、本来ならば、下院における多数派のあり方にかかわる。過半数の議席を有していれば、不信任は決議されないので、下院の任期が満了するまで政権は存続する。議会選挙において、1つの政党が過半数の議席を獲得すれば、その政党の党首が首相となる。単独政権・多数派政権であり、もっとも安定的である。

過半数の議席を獲得した政党がなければ、複数の政党で過半数を確保すべく、政党間で交渉や協議が始まる。こうして形成されるのは連立政権・多数派政権である。複数政党で形成される連立政権は、政策への意見の相違などから1つの政党が連立を離脱すれば、過半数割れの少数政権に転じる。離脱政党を抑え多数派となった野党勢力は団結して不信任決議を行うか。与党は新たな連立パートナーを求め多数派に転じるか、過半数をめぐる攻防となる。

だが、こうして「原則」は日本に当てはまっていない。